

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079800191		
法人名	社会福祉法人 福智会		
事業所名	グループホーム ふくち		
所在地	福岡県田川郡福智町弁城4193番地28 (電話) 0947-22-1434		
自己評価作成日	平成 26 年 6 月 10 日	評価結果確定日	平成 26 年 8 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人ひとりの生きがい作りに長年取り組んできたが、利用者の高齢化に伴い、趣味や得意としていたことが出来なくなり、個人単位での取組みが困難になってきている。そこで、今まで通りのその人に合った生き方を模索しながらも、全体で出来ることに重点を置き、個別ショッピングやバスハイク等の外出支援やレク大会等を充実させることにより、明るく楽しく元気なホームを目指している。

又、地域交流は、“ふくちの日”を利用した交流に中心が移ってきた。最も身近な地区の老人会の皆様や民生委員の方々に参加して頂くことにより、地域のホームとして皆様に親しんで頂けるよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 26 年 6 月 25 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

福智山麓の豊かな自然に囲まれ、敷地内には特別養護老人ホームが隣接している平屋建ての事業所で、玄関を開けると、個人宅へ招かれたような雰囲気で見られる。管理者を中心に職員一人ひとりが地域密着の理念を理解し、利用者を主体とした実践目標に沿って支援している。また、月に1度「ふくちの日」として、待機者や老人会、民生委員等の地域住民を招き、利用者との交流を深めている。食へのこだわりも強く、物産店や自家菜園でとれた新鮮な食材を利用し、旬のものを美味しく楽しく食する工夫がされている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念は、人権尊重、能力発揮、地域交流、の3本柱から成っており、その実践のため、年度目標を定め、職員と共に、日々のサービス提供に努めている。	事業所の理念は大きな3本の柱と地域密着の視点をそなえた3つの実践目標からなっている。職員一人ひとりが理念を記載した携帯用のカードを持ち、職員会議や委員会等で話し合う機会がある。全職員に地域密着の考え方が浸透している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	恒例となっている地区老人会の“ふれあい交流”への参加や、保育所への積極的な出張交流を継続し続けることにより、地域の一員として暮らせることを目指している。	毎月の「ふくちの日」をはじめ、地域の方との交流の機会を設けている。地域活動への参加は難しいが、自発的に近隣の公園の草取りを、役割意識を持って行っている。また、保育所に行き、子どもたちと一緒に花見や七夕会に参加している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームと地域との交流窓口になっている“ふくちの日”に、最寄の地区老人会の皆様や民生委員の皆様に参加して頂き、ホームの内容や利用者の状況を知って頂くようにしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容等については前向きに対応し、サービス向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1度の奇数月に、利用者や家族・行政職員・地域住民が参加して開催している。「ふくちだより」を配布し、施設をより理解してもらえるような取り組みがなされている。会議での活発な意見が運営に反映されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して行政担当者や包括支援センターの担当者と意見交換を行い、連携をとっている。	行政とは日頃から行き来する機会があり、関係づくりは構築されている。運営推進会議議事録を持参する等、更に関係を深める取り組みが成されている。また、初任者研修や基礎研修、民生委員の研修受け入れ等を積極的に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設と同様に拘束廃止委員会を設けており、身体拘束や言葉の拘束のみならず、青あざの発生状況等についても観察し、発生を予防するように取り組んでいる。	終日、居室・玄関は施錠をしていない。利用者の外出傾向は職員全員で把握し、無理強いせず利用者の主体性を尊重している。事業所独自の所在チェック表を作成しており、目配りを行っている。拘束に関する専門委員を配置して内部研修を定期的に行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束廃止委員会を設置し、併設施設とも協力しながら、色々な角度からの検討を重ね、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員間で話し合っている。	権利擁護に関する制度の説明は、パンフレットを利用して相談があった時や必要時に行っている。また職員は、定期的に権利擁護に関する勉強会を行っている。	今後は、権利擁護に関する制度について、契約時や利用開始時、来訪時等定期的に繰り返し説明を行うことを期待したい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び契約解除時には、利用者や家族には事前に十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表や家族代表に出席して頂き、忌憚のない意見を出して頂いて、運営に反映させる努力をしている。又、家族が面会に見えた時などに意見や提案などの確認をし、サービス提供に反映させている。	利用者や家族は、運営推進会議に参加し、意見や思いを述べる機会がある。職員との話しやすい関係ができており、主に日常生活の中で思いを伝えることが多い。家族会は年に1回開催し、家族に対して半年に1回程度アンケートをとっている。家族の意見はケアプランや運営に反映されている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、その他の機会を作り、職員と様々な問題について話し合っている。又、必要に応じ個別にも話し合っている。	管理者や主任は、管理者を中心とした体制をつくり、日常的に職員等が意見が言いやすく、意向を反映しやすい工夫をしており、職員はケアや業務内容、運営において意見が言いやすい状況になっている。また、ユニット間の交流は密で、相互の協力体制が整っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を採り入れており、職員個々に応じた職務目標の設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心をもって働ける職場作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別等を問わないことにしている。又、職場では、職員の特性に応じた役割分担を心掛けており、基本方針として、定年まで働いて頂くようにしている。	職員を採用する際、性別や年齢は問わない。延長雇用があり、定年後も同じ雇用形態で継続している職員がいる。研修や資格取得に向けた協力体制があり、業務の調整を行い、積極的に受講できるよう取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育の研修等には極力参加するようにしている。又、利用者の尊厳に対する人権等の啓発活動については、専門委員会、ケアカンファレンス、朝礼、終礼等を通して行っている。	全職員は、人権に関する内部及び外部研修に参加している。昨年度は外部講師を招き、併設の特養の職員と合同の研修会を行った。利用者の人権を尊重する取り組みは、理念の中にもあり、職員会議や委員会を通じ話し合われている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人は人事考課制度を導入している。職員一人ひとりの経歴、職務能力に応じた年間職務目標を管理者・職員面談の上で決定し、年間を通し目標達成に取り組んでいる。又、職員の能力に応じた研修を適宜確保している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等に参加し、各々が抱えている問題点に考察を重ね、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談に来られた時より、本人が安心して話の出来る雰囲気作りに心掛けており、本人の困っている事や不安、要望等に耳を傾けることにより、本人の置かれている状況を理解するように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談に来られた時より、これまでのご家族の苦労を労い、入所希望に至った経緯等についてじっくりと耳を傾けるようにしている。そのうえで、ご家族の立場に立って共に協力し合っていける関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容により必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所、病院等の紹介を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴や話し合いの中から、出来る事、得意な事を見出し、本来の力が発揮出来るよう支援している。又、食事準備、片付けや買物等、暮らしを共に出来るよう心掛けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れ、面会に来て頂くようご家族に声掛けをしているが、特に、誕生日会、敬老会等の行事にはご家族も参加して頂き、利用者と共に大切な時間を過ごして頂くよう声掛けをしている。又、遠方にご家族には、便りや電話にて利用者の状況を知らせている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人に関係の深い方が気兼ねなく来訪出来るよう心掛けている。又、利用者の生活地域の交流に定期的に参加し、知人や友人との関係が途切れないよう支援している。	職員は利用者の生活歴等を本人や家族から聞き取り、利用者が安心して生活できるよう日頃のケアに活かしている。入所前に通っていたミニデイに継続通所している利用者もいる。また、友人が会いに来ることもあり、馴染みの関係が途切れない支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ利用者同士の関わりが密になるように、居室で過ごすことを極力控え、食堂や和室、廊下のソファ等で過ごされる時間が多くなるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、併設施設へ移転された後も、面会に行ったり、家族と連絡を取ったり、訪問する機会を設けたりして、継続的な関わりを持ち、よりよい人間関係を保ってけるように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との日々の関わりの中で、本人の生活歴、職歴、病歴、生きてきた足跡等を見出し、全職員がその情報を把握しようと努めている。情報の把握が困難であったり、不確かな場合は、関係者集まり、本人の視点に立って話し合いをしている。	日常の関わりや生活場面、入浴中の会話などの中で、利用者の表情や何気ない言葉を捉えて思いを確認し、意思疎通が困難な利用者は、家族と連携をとることで、言葉にできない思いや意向を汲み取っている。利用者にあった分かり易い言葉かけを行うよう努めている。利用者の外出や食事の希望にその都度応えている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との話し合いの中から、過去の暮らしぶりや生活環境等を把握し、毎日の生活に活かせるようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼、終礼、介護記録、ケアカンファレンス等で、利用者一人ひとりの心身状況や一日の過ごし方等を職員全員が把握出来るようにしている。又、利用者の出来る事、分る事等発見するよう、毎日のケアに努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との面会時や日々の本人との関わりの中で、要望・意見を聞きながら、介護計画を作成している。又、現状を常に把握しながら変化が見られる時は、現状に即して介護計画を見直している。	介護計画作成は、通常は3ヶ月毎に見直しを行い、状態変化や状況に応じた計画の追加等を随時行っている。作成にあたっては、家族および利用者に要望等を聞いている。各担当職員は、日々の支援をモニタリングし、情報や意見、アイデア等をケア会議等で検討し策定している。家族の訪問時に説明し、同意がなされている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	コミュニケーションを密にとりながら、その時々々の状態や日々の暮らしの様子、気付き等を記録している。又、朝礼や終礼にて申し送りを行い、細かな事でも職員間で情報を共有できるようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	早期の病院受診や定期受診を行い、利用者、家族が安心して暮らしていけるよう心掛けている。又、利用者の要望に応じた個別ショッピング、バスハイク、園外散歩等にも柔軟に応じられるよう取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して行政や地域の福祉関係者より助言等を頂き、日々のサービス提供に生かしている。又、社協や地区老人会の皆様に御協力をして頂いているふれあい交流や、保育所、小学校の皆様に御協力を頂きながら、より豊かな地域生活を送れるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、本人・家族の希望を大切にしている。にかかりつけ医がいる場合は、基本的には継続して医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医は本人及び家族の意向を尊重している。通院・受診は家族が同行できない時も含めてすべて職員が付き添い、変更のない定期受診以外は受診の状態を家族に報告している。状態変化によっては、家族が付き添い受診後の報告をしてもらい、適切な医療が行われるように支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員や協力病院の看護師と連携を図っている。又、4月より看護師が常勤となり、より細かな観察をしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合は、病院側に本人の特徴や生活状況を伝え、認知症の進行や身体機能の低下に配慮しながら、主治医、家族と情報交換し早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合は、家族や本人の希望を重視し、今後の方針について家族、主治医、職員と連携をとりながら検討するようになっている。	重度化や看取りの方針がある。同意書等で確認は取っていないが、事業所の看取りの方針として入居時に事業所でできることの範囲や限界について、十分に説明を行い、健康管理や急変時に備えられるよう家族の意向を踏まえて取り組んでいる。併設の特別養護老人ホームの看護師と連携し、更に近隣の医療機関とも24時間の対応体制を整えている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命訓練を年1回実施している。又、マニュアルに基づく勉強会を行い職員全員に周知徹底を図っている。正月前には誤嚥時の対応について勉強会を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者全員の参加を促し、又、消防署の協力を得て定期的に実践的防災訓練を行っている。訓練を通して問題点の洗い出しを行い、利用者の命を守る対策の向上に繋げている。又、併設施設との協力体制も構築している。	日中と夜間想定避難訓練を2ヶ月に1度行ない消防署へ報告を行っている。また、年1回は消防署の協力のもと、併設施設と合同で災害訓練も実施している。職員の災害に対する意識が高まり、利用者も自身の可能な範囲で素早く避難体制が取れるようになっている。非常用備品に関しては、飲料水は敷地内に給水塔があり、普段の食料を多めに購入するなどに対応している。	災害の発生や非常時に備えて、備蓄品として飲料水・食料・トイレ・寒さをしのげるような物品等を事業所内に準備していただきたい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が居室に居る時や排泄時、入浴時には特にプライバシーに配慮した介助を行っている。言葉掛けは、利用者の尊厳や意向に配慮して行っている。	職員は利用者に対しては敬意ある言葉遣いに努め、排泄や入浴、更衣介助等に際しては不用意な露出を避け、ドアの開閉には注意を払い、ノックするようにしている。トイレ誘導は個々の利用者ごとに適切な言葉かけを行っている。管理者は職員に対して、本人・家族のプライバシー保護に関して具体的な研修指導を日頃から行っており、職員も認識して実践している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者へ声を掛ける時は、利用者の意思が出せるような声掛けを常に心掛けている。又、外出時や入浴後の衣類の選択、行事食等のメニュー、ショッピング、散歩、ドライブ等については、利用者の希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢で居ることを好む人、煩わしいと感じる人が居るので、その人の思いに合わせて行事への参加を促したり、したい事等を選択できるよう配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員によるカットや毛染めを行っている。男性は毎日の髭剃りや整髪、女性は好みに応じて白髪染め、マニキュア、化粧品等を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合せた食事形態を考慮したり、好みによるパン食や、行事食のメニュー等利用者の希望に配慮している。更に、4月より料理チェック表を導入し、きめの細かい食事管理を行うようにした。又、食事の準備、調理、盛り付け、配膳、後片付け等も無理の無い範囲で手伝ってもらっている。	「食事時間が待ち遠しくなるものを提供したい」との思いから、事業所独自に食事委員を設け、更に検食報告が活用されている。利用者の嗜好や状態に配慮し、または希望を随時取り入れ、利用者と共に物産店で購入したものや自家菜園での採れたてを料理し、味のバランスや量も十分にある。食事の準備・味見・後片付け等は利用者も一緒に行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの基本的なカロリー計算は食材業者が行っているが、利用者のアルブミン値を測定し栄養状態を確認している。又、毎日の食事量や水分の種類、摂取量も記録し、日々の食事管理も行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生には十分に配慮している。毎食後の口腔ケアは習慣化しており、利用者の能力に応じた支援で清潔保持に努めている。又、夕食後義歯を預かり、ポリドントにて洗浄、除菌している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、定期的にトイレへの声掛けをしたり、利用者の仕草、表情より判断してトイレ誘導を行うことにより、尿取りパットやオムツを使用しないで済むように支援している。	排泄チェックは利用者全員の記入を行い、排泄リズムを把握している。パッド等は使用枚数をチェックし、家族に報告している。排泄は随時誘導や声をかけ、あるいは行動を見守り、日中・夜間ともトイレでの排泄支援を行い、一人ひとりの排泄の自立や維持に向けた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックリストにて把握し、水分補給状況も記録し確認している。食物繊維の多い物の摂取、体操、腹部マッサージ等を行い、便秘予防に努めている。又、排便がスムーズに行えるように下剤の調整も行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的には毎日、午前午後問わず入浴できるようにしている。その中で、利用者の希望の時間や体調に合わせて入浴支援を行っている。	お風呂は毎日入ることができる。午前と午後に入浴時間があり、希望する時間帯に入浴されている。毎日入る利用者も多く、好みで入浴剤を入れたり浴室に飾り物をして楽しめる工夫をしている。入浴を拒否される場合は時間をずらしたり職員が交代して誘う等方法を工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、本人が眠くなったときに眠るようにしている。極力、薬を服用せずに安眠できるよう心掛けている。しかし、寝つきの悪い時や不穏時には、和室や食堂を利用しながら、お茶を提供したりして、会話をしながらリラックスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時は3点確認を行い、飲込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合は状態観察を細かく行い、変化が見られれば受診を行い、薬の調節を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者毎に担当の職員を決め関わりを深くすることにより、利用者が元気になりそうな事や興味のある事を引き出して職員全体に周知させ、日々の生活に生かしているようにしている。（個別ショッピング、畑、散歩、編物、折紙、台所手伝い等）		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中の取組として出来るだけ外出することを心掛けており、行事のみならず本人の希望によりショッピングに出かけたり、散歩や園外活動、季節の花見物等その時々に応じ対応している。	散歩は数名が毎日実施している。また買い物やドライブなども職員と共に積極的に出かけている。散歩を好まない利用者については、無理強いせずデッキ等で外気浴等を勧めている。計画的な外出や食事は、利用者の要望に沿っている。ほぼ全員で出かける季節毎の花見、「いろりの郷」で職員と共に料理を作り食事することも定着している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な利用者には職員確認のうえ、自己管理してもらっている。出来ない方にはショッピングの時にお金を渡し、支払いが出来るよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に対し、毎月、“月間行事表”を、2ヶ月毎に“ふくちだより”とメッセージを添えて郵送し、利用者やホームの様子が判るようにしている。又、本人の希望があれば家族と相談のうえ、携帯電話を購入して頂き、家族や知人と連絡が取れるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の飾り物を飾り、季節感を出している。日中の強い日差しは、レースのカーテンやすだれで遮光しており、換気にも十分配慮している。トイレは尿臭などしないようこまめに掃除をしており、各居室には消臭剤を配置している。	ユニット毎に畳の間があり、大きなソファが置かれ、冬場は炬燵が置かれる。車いすの利用者が座る場所を変えて喜ばれている。廊下の壁には作品や日頃の活動の写真などが貼られている。室内は換気消臭に配慮され、室内温度は各室に温湿度計を置き管理している。よしずやカーテンで光の強さを調整して落ち着いて過ごせるような工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファ、玄関先のベンチ、和室、食堂等、思い思いの過ごし方ができる場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みの品、季節の花やレクリエーションで作った作品等を居室に置くことにより、安心感や居心地の良さを感じてもらえるようにしている。	事業所にはベッド・エアコン・タンスが準備されており、居室にはその他にテレビやソファ、テーブル等が置かれ、過ごしやすく配置されている。家族の写真、時計、カレンダーや花などが窓に飾られている。仏壇を持ち込んでいる利用者もあり、其々個性的な設えとなっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の工夫として、まずバリアフリーの設計になっており、必要箇所への手すりの設置、4ヶ所に設置されたトイレ、センサー式蛇口の洗面所、滑り止めマット使用の浴槽などがある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念は、人権尊重、能力発揮、地域交流、の3本柱から成っており、その実践のため、年度目標を定め、職員と共に、日々のサービス提供に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	恒例となっている地区老人会の“ふれあい交流”への参加や、保育所への積極的な出張交流を継続し続けることにより、地域の一員として暮らせることを目指している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームと地域との交流窓口になっている“ふくちの日”に、最寄の地区老人会の皆様や民生委員の皆様に参加して頂き、ホームの内容や利用者の状況を知って頂くようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容等については前向きに対応し、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して行政担当者や包括支援センターの担当者と意見交換を行い、連携をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設と同様に拘束廃止委員会を設けており、身体拘束や言葉の拘束のみならず、青あざの発生状況等についても観察し、発生を予防するように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束廃止委員会を設置し、併設施設とも協力しながら、色々な角度からの検討を重ね、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員間で話し合っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び契約解除時には、利用者や家族には事前に十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表や家族代表に出席して頂き、忌憚のない意見を出して頂いて、運営に反映させる努力をしている。又、家族が面会に見えた時などに意見や提案などの確認をし、サービス提供に反映させている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、その他の機会を作り、職員と様々な問題について話し合っている。又、必要に応じ個別にも話し合っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を採り入れており、職員個々に応じた職務目標の設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心をもって働ける職場作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別等を問わないことにしている。又、職場では、職員の特性に応じた役割分担を心掛けており、基本方針として、定年まで働いて頂くようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育の研修等には極力参加するようにしている。又、利用者の尊厳に対する人権等の啓蒙活動については、専門委員会、ケアカンファレンス、朝礼、終礼等を通して行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人は人事考課制度を導入している。職員一人ひとりの経歴、職務能力に応じた年間職務目標を管理者・職員面談の上で決定し、年間を通し目標達成に取り組んでいる。又、職員の能力に応じた研修を適宜確保している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等に参加し、各々が抱えている問題点に考察を重ね、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談に来られた時より、本人が安心して話の出来る雰囲気作りに心掛けており、本人の困っている事や不安、要望等に耳を傾けることにより、本人の置かれている状況を理解するように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談に来られた時より、これまでのご家族の苦勞を労い、入所希望に至った経緯等についてじっくりと耳を傾けるようにしている。そのうえで、ご家族の立場に立って共に協力し合っていける関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容により必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所、病院等の紹介を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴や話し合いの中から、出来る事、得意な事を見出し、本来の力が発揮出来るよう支援している。又、食事準備、片付けや買物等、暮らしを共に出来るよう心掛けています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れ、面会に来て頂くようご家族に声掛けをしているが、特に、誕生日会、敬老会等の行事にはご家族も参加して頂き、利用者と共に大切な時間を過ごして頂くよう声掛けをしている。又、遠方にご家族には、便りや電話にて利用者の状況を知らせている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人に関係の深い方が気兼ねなく来訪出来るよう心掛けています。又、利用者の生活地域の交流に定期的に参加し、知人や友人との関係が途切れないよう支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ利用者同士の関わりが密になるように、居室で過ごすことを極力控え、食堂や和室、廊下のソファ等で過ごされる時間が多くなるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、併設施設へ移転された後も、面会に行ったり、家族と連絡を取ったり、訪問する機会を設けたりして、継続的な関わりを持ち、よりよい人間関係を保っていただけるように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との日々の関わりの中で、本人の生活歴、職歴、病歴、生きてきた足跡等を見出し、全職員がその情報を把握しようと努めている。情報の把握が困難であったり、不確かな場合は、関係者集まり、本人の視点に立って話し合いをしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との話し合いの中から、過去の暮らしぶりや生活環境等を把握し、毎日の生活に活かせるようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼、終礼、介護記録、ケアカンファレンス等で、利用者一人ひとりの心身状況や一日の過ごし方等を職員全員が把握出来るようにしている。又、利用者の出来る事、分る事等発見するよう、毎日のケアに努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との面会時や日々の本人との関わりの中で、要望・意見を聞きながら、介護計画を作成している。又、現状を常に把握しながら変化が見られる時は、現状に即して介護計画を見直している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	コミュニケーションを密にとりながら、その時々々の状態や日々の暮らしの様子、気付き等を記録している。又、朝礼や終礼にて申し送りを行い、細かな事でも職員間で情報を共有できるようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	早期の病院受診や定期受診を行い、利用者、家族が安心して暮らしていけるよう心掛けている。又、利用者の要望に応じた個別ショッピング、バスハイク、園外散歩等にも柔軟に応じられるよう取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して行政や地域の福祉関係者より助言等を頂き、日々のサービス提供に生かしている。又、社協や地区老人会の皆様に御協力をして頂いているふれあい交流や、保育所、小学校の皆様に御協力を頂きながら、より豊かな地域生活を送れるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、本人・家族の希望を大切にしている。にかかりつけ医がいる場合は、基本的には継続して医療が受けられるように支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員や協力病院の看護師と連携を図っている。又、4月より看護師が常勤となり、より細かな観察をしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合は、病院側に本人の特徴や生活状況を伝え、認知症の進行や身体機能の低下に配慮しながら、主治医、家族と情報交換し早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合は、家族や本人の希望を重視し、今後の方針について家族、主治医、職員と連携をとりながら検討するようになっている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命訓練を年1回実施している。又、マニュアルに基づく勉強会を行い職員全員に周知徹底を図っている。正月前には誤嚥時の対応について勉強会を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者全員の参加を促し、又、消防署の協力を得て定期的実践的防災訓練を行っている。訓練を通して問題点の洗い出しを行い、利用者の命を守る対策の向上に繋げている。又、併設施設との協力体制も構築している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が居室に居る時や排泄時、入浴時には特にプライバシーに配慮した介助を行っている。言葉掛けは、利用者の尊厳や意向に配慮して行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者へ声を掛ける時は、利用者の意思が出せるような声掛けを常に心掛けている。又、外出時や入浴後の衣類の選択、行事食等のメニュー、ショッピング、散歩、ドライブ等については、利用者の希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢で居ることを好む人、煩わしいと感じる人が居るので、その人の思いに合わせて行事への参加を促したり、したい事等を選択できるよう配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員によるカットや毛染めを行っている。男性は毎日の髭剃りや整髪、女性は好みに応じて白髪染め、マニキュア、化粧等を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合せた食事形態を考慮したり、好みによるパン食や、行事食のメニュー等利用者の希望に配慮している。更に、4月より料理チェック表を導入し、きめの細かい食事管理を行うようにした。又、食事の準備、調理、盛り付け、配膳、後片付け等も無理の無い範囲で手伝ってもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの基本的なカロリー計算は食材業者が行っているが、利用者のアルブミン値を測定し栄養状態を確認している。又、毎日の食事量や水分の種類、摂取量も記録し、日々の食事管理も行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生には十分に配慮している。毎食後の口腔ケアは習慣化しており、利用者の能力に応じた支援で清潔保持に努めている。又、夕食後義歯を預かり、ポリドントにて洗浄、除菌している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、定期的にトイレへの声掛けをしたり、利用者の仕草、表情より判断してトイレ誘導を行うことにより、尿取りパットやオムツを使用しないで済むように支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックリストにて把握し、水分補給状況も記録し確認している。食物繊維の多い物の摂取、体操、腹部マッサージ等を行い、便秘予防に努めている。又、排便がスムーズに行えるように下剤の調整も行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的には毎日、午前午後問わず入浴できるようにしている。その中で、利用者の希望の時間や体調に合わせて入浴支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、本人が眠くなったときに眠るようにしている。極力、薬を服用せずに安眠できるよう心掛けている。しかし、寝つきの悪い時や不穏時には、和室や食堂を利用しながら、お茶を提供したりして、会話をしながらリラックスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時は3点確認を行い、飲込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合は状態観察を細かく行い、変化が見られれば受診を行い、薬の調節を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者毎に担当の職員を決め関わりを深くすることにより、利用者が元気になるような事や興味のある事を引き出して職員全体に周知させ、日々の生活に生かしているようにしている。（個別ショッピング、畑、散歩、編物、折紙、台所手伝い等）		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中の取組として出来るだけ外出することを心掛けており、行事のみならず本人の希望によりショッピングに出かけたり、散歩や園外活動、季節の花見物等その時々に応じ対応している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な利用者には職員確認のうえ、自己管理してもらっている。出来ない方にはショッピングの時にお金を渡し、支払いが出来るよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に対し、毎月、“月間行事表”を、2ヶ月毎に“ふくちだより”とメッセージを添えて郵送し、利用者やホームの様子が判るようにしている。又、本人の希望があれば家族と相談のうえ、携帯電話を購入して頂き、家族や知人と連絡が取れるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の飾り物を飾り、季節感を出している。日中の強い日差しは、レースのカーテンやすだれで遮光しており、換気にも十分配慮している。トイレは尿臭などしないようこまめに掃除をしており、各居室には消臭剤を配置している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファ、玄関先のベンチ、和室、食堂等、思い思いの過ごし方ができる場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みの品、季節の花やレクリエーションで作った作品等を居室に置くことにより、安心感や居心地の良さを感じてもらえるようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の工夫として、まずバリアフリーの設計になっており、必要箇所への手すりの設置、4ヶ所に設置されたトイレ、センサー式蛇口の洗面所、滑り止めマット使用の浴槽などがある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない